

## (30) 北富田の瑪瑙

茨城県の久慈川の支流にある山県町の北富田には瑪瑙鉦山がある。参考文献(1)に従って、鉦山跡を探しに行ったが、文献の地図は古すぎた。迷ってしまった。仕方がないので、鉦山付近を流れている沢を探查することにした。久慈川にかかっている舟生橋より北に約1 kmの所で、北東方向に伸びている道路を進んでいく。この道路の先に北富田がある。沢の探查は、沢の入り口から500 m上流当たりから始め、大崎地区があるあたりまで行った。地形図中の赤丸印の間で行った。もっと先まで行けるのであるが、沢水に生活排水が濃くなってきたので、切り上げることにした。大崎地区の生活排水が沢に垂れ流しにされているようだ。1.5 km程度の沢の探查であった。それなりの成果があった。地元の人と話すことが出来た。沢で瑪瑙を探すなら、大雨が降った後がよろしいということであった。ごもっとも。



地図 国土地理院 2万5千分の1地形図「大中宿」+「山方」

探查日 2009年1月

参考文献

(1)「鉦物採集フィールドガイド」、草下英明、草思社、東海大学出版会、1982年。

## 鉾山跡写真



舟生橋から北に約1 km地点。よく見ると5叉路となっている。北富田地区への入り口は右上方に向かっている道ではなく、その下となっている右真横の道である。沢を右手にして進んでいく。



正面の道が北富田地区への道



沢中での瑪瑙の採集。真ん中の白っぽい石が瑪瑙。

## 採集鉱物写真

品名 玉髓、仏頭石、瑪瑙（めのう）  
化学組成  $\text{SiO}_2$   
色 各種あり  
断口 貝殻状



瑪瑙。大きさは10cm立方程度



瑪瑙の仏頭石。左右長9cm。

### 解説

(1) ケイ酸が膠状となって母岩の空隙で沈殿形成したもの。現在では普通名称として瑪瑙が使われる。表面が仏頭状の粒できている瑪瑙は玉髓と呼ぶ。

(2) 参考文献(1)を手引きに、現地に出向いた。時の流れによる村落の変化、河川の改修、山間道路の改修などにより、文献中の地図及び案内文と、国土地理院発行2万5千分の一との不一致が多かった。細い小川が数kmに渡って、上流の村落まで至っている。この小川を下流から上流へと採集散策をした。数十個以上を採集した。殆どが無色(灰色か)半透明、縞模様は無し。

(3) 玉髓の成長過程で、石の表面に「仏像の半球状の頭髮」如き成長面が見られる場合がある。このような石を特に「仏頭石」と呼ぶ。

(4) 採集試料の洗浄に、トイレ用の「サンポール」(希塩酸含有)を、水でだいぶ薄めて使用した。結構綺麗に洗浄することが出来た。超音波洗浄小さい試料は超音波洗浄も行った(大きすぎる試料は超音波洗浄機の洗浄タンクに収まらなかったで)。

(5) 少し茶色がかった玉髓がある。あまり見事ではないが、一応瑪瑙と呼んでも良いであろう。

(6) 玉髓部、瑪瑙部、小さい水晶の成長部の3つが1つの試料で見ることが出来る良い試料がある。